

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
関西医療学園専門学校	昭和32年5月13日	武田 大輔	〒558-0011 大阪府大阪市住吉区荻田6-18-13 (電話) 06-6699-2222				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人関西医療学園	昭和55年5月8日	武田 大輔	〒590-0482 大阪府泉南郡熊取町若葉2-11-1 (電話) 072-453-8251				
目的	学校教育法及びあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律に基づき、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師に必要な専門的知識及び技術を教授し、資格の取得のみならず心豊かな人間性と確かな実践力を身につけた医療人を育成並びに社会に貢献できる人材を輩出することを目的とする。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程 (職業実践専門課程)	東洋医療鍼灸学科	平成16年文部科学省告示第17号	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	新(1)	2660	1970	0	180	0	510
	旧(2・3)	2400	1550	75	180	0	595
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
90人	53人	9人	24人	33人			
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験を主として総合的に評価し、100点満点中60点以上を合格とする。			
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 8月1日～8月31日 ■冬季: 12月27日～1月6日 ■学年末: 3月31日		卒業・進級条件	卒業条件は、出席を満たすと同時に、定期試験・卒業試験等すべての科目の試験合格を条件とする。進級条件は、出席を満たすと同時に、進級試験を合格し、未修得単位15単位以下を条件とする。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 担任・副担任との個別面談を行い、未改善の学生は保護者との面談を行う。		課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 鍼灸院・病院・クリニック・診療所 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 60% ■その他 (平成29年度卒業者に関する平成30年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等	はり師国家試験受験資格 きゆう師国家試験受験資格			
中途退学の現状	■中途退学者 2名 平成29年4月1日時点において 在学者 72名 平成30年3月31日時点において 在学者 70名 ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止のための取組 担任・副担任による定期的な個別面談		中退率	2.8% (平成29年4月1日入学者を含む) (平成30年3月31日卒業者を含む)			
ホームページ	URL: http://www.kansai-iryo.ac.jp						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設認定規則等の関係法令に基づき、教育内容や教員資格は厳格に定められている。
本校ではより専門的な知識と実践的な技術を教授できるように企業その他医療機関と連携し、教育課程を編成する上で意見を十分に活用し取り組むことを基本方針としている。これに伴い、定例で月1回、教員間で会議を開催し、授業内容や学生状況等について報告及び検討をしている。そこでは兼任教員からの意見を十分に取り入れ、カリキュラム編成、授業内容の改善及び学生指導等に活かしている。
特に教育課程の編成においては企業等と連携する教育課程編成委員会を設置し、教育内容の確認と効果を評価した上で、より実践的な教育課程の編成及び教育内容の充実を目的として、教育水準の維持向上を目指している。
本校の教育理念である「心豊かな人間性と確かな実践力を身につけた医療人を育成並びに社会に貢献できる人材を輩出すること」を達成するため、企業等と連携する教育課程編成委員会からの意見を十分に活用し改善に取り組むこととする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会委員は学校法人関西医療学園 関西医療学園専門学校の教職員と企業関係者等の外部役員から構成し、互いの意見を十分に活かし、より充実した教育課程の編成を協力して行うものとして位置付ける。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在			
名前	所属	任期	種別
武田 大輔	関西医療学園専門学校	1年	
廣岡 聡	関西医療学園専門学校	1年	
武田 貴司	関西医療学園専門学校	1年	
森岡 泰之	関西医療学園専門学校	1年	
徳田 明也	関西医療学園専門学校	1年	
山本 博司	公益社団法人 全日本鍼灸学会	1年	②
高岸 美和	一般社団法人 日本柔道整復接骨医学会	1年	②
辻村 英一郎	辻村内科循環器科	1年	③
川崎 勝巳	川崎針灸院	1年	③
門脇 伸幸	かどわき接骨院	1年	③
田中 理光	田中整骨院	1年	③
織田 明	株式会社 ワールド	1年	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役員(1企業や関係施設の役員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

毎年、9月と2月(又は3月)の2回で開催を実施するものとする。
今年度は平成30年9月1日に開催実績と平成31年2月23日に開催予定である。
但し、委員会委員が緊急に教育課程の改善が必要であると判断した場合は、随時、委員会を開催することができるような体制をとる。

(開催日時)

- 第1回 平成30年9月1日 14時00分～14時45分
第2回 平成31年2月23日 14時00分～15時00分(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- 平成30年9月1日(土)14時から14時45分
委員会で提案された内容は本年度及び次年度の教育課程に活用できる改善点等を精査して、次回委員会で報告する。
・平成30年度より開始した東洋医療(鍼灸)学科(夜間)の新カリキュラムにおいて、今後、業界に関連する制度等の改正に応じて、授業科目として明確に配当する必要性があった。これについては配当科目は既に設定され、改正及び変更等に応じて3年間の授業内容の中で教授する予定である旨説明を行った。
・学外で開催するスポーツ等の各種イベントにおける救護体験等に東洋医療鍼灸学科(夜間)の学生を参加させる提案があった。これについては学生からの申し出により授業以外として積極的な参加に協力している旨説明を行った。
・東洋医療鍼灸学科(夜間)の新カリキュラムにおいて、授業科目としての学外実習の実施の提案があったため、継続審議として検討することとする。
- 平成31年2月23日(土)14時開催予定
前回委員会で提案された内容は議事録として報告し、精査した事項については本年度に活用した事項とそれ以外でも計画的に可能な範囲で次年度以降において教育課程の編成に活かすこととする。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

関係法令に定められた授業内容において、医学知識、治療技術及び臨床実習等の医療人として必要な素養を修得した上で、企業等と連携して卒業後に即戦力として臨床の現場で活躍できる臨床家としての医療人を育成することが基本方針である。これに基づき兼任教員(企業の連携)の授業では、現場での知識・技術の習得が実習・演習に活かされている。その結果、卒業後においても病院、クリニック、鍼灸院等多数の就職に結びついている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

科目の講師依頼の際、本校と企業等の兼任教員(非常勤講師)において講義内容及び範囲等の打合せを行い、その上で実習内容や学生の学習成果の評価方法・評価指標について説明及び調整を行う。講義期間内は、適宜必要に応じ、専任教員と兼任教員間で学生の授業の受講状況や内容の修得状況が把握できるよう情報交換を行っている。成績評価は前期、後期試験を実施した上で評価する。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
はりきゅう実技Ⅱ・Ⅲ	人体の各部にある経穴に対し安全かつ効果的に鍼灸施術が行えることを目的とする。鍼の刺入角度や深度、刺激量などについて学び、安全で効果的な施術を身に付ける。臨床現場で日々施術に携わっている鍼灸師の指導のもとと学生相互に実技を行う。	左川鍼灸院
東洋医学総合療法Ⅳ	鍼療法の一つである耳鍼療法の基礎的な理論を学習し、臨床に応用できることを目的とする。耳鍼療法の歴史や理論について解説を行うとともに実際の臨床に応用できる実践的な内容の授業を行う。	西川洋子鍼灸院
はりきゅう実技Ⅳ	3年次に実施する実技授業であるため、1・2年生で修得してきた基礎・応用に加え、さらに効果的な鍼灸施術が行えるよう実践的かつ総合的な技術と技能を身に付けることを目的とする。授業内容は、実際の臨床現場でよく見られる疾患に対する鍼灸治療の施術を担当教員の指導のもと、学生相互に実技を実施する。	ふじた鍼灸大学堂
特殊療法Ⅰ・Ⅱ	東洋医学における伝統的な古典鍼灸等の療法について多様に学び、知識と治療の幅を広げることを目的とする。東洋医学の代表的な古典医学書を基礎に体系化された療法を担当教員の指導のもと、その知識と技能を具体的に学ぶ。	古野鍼灸院
臨床実習	診察から治療までがどのような流れで行われるかを学ぶ。また受付業務やカルテ整理などについて実習する。	清藤鍼灸院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員は更なるスキルアップを目指し、学科全体で職能団体が開催する研修会、勉強会等並びに学会に参加し専門的知識、技術の修得に努める。

定期的に企業等の外部講師によるFD(SD)研修会に参加し、授業等に活用できるようスキルアップに活用している。また、各教員の役割に応じたFD研修会にも参加し個々のスキルアップにも活用している。また、姉妹校による大学のSD研修等にも可能であれば積極的に参加している。

専任教員に対しては、企業等及び関連施設と連携して社会的現状を把握し、実習及び実技の更なる高度な専門的知識を習得するため、毎年度、計画を立て週1回の学外研修を実施している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修として職能団体が開催する教員研修会に組織的に参加している。研修をとおして東洋医学に関する専門的な知識を深め、技術面・技能面においてもその向上に努めている。本年度は平成30年8月6日から7日の2日間に渡り、公益社団法人東洋療法学校協会の主催で、神奈川衛生学園専門学校が主管校となり、主題を「ストレス・マネジメント:教員のバーンアウト予防のパラダイムシフト」とし、マインドフルネスな関係を教員と学生間で構築するための内容で研修が開催された。

②指導力の修得・向上のための研修等

指導力のスキルアップには企業関係者等の外部講師によるFD(SD)研修会に参加し、学生に対するコーチング及び学生指導等について個々の教員の質の向上を目的とする研修を行う。

本年度は平成30年4月7日から8日の2日間に渡り、講師の坂東弘康先生(一般財団法人日本教育推進財団会長)により、主題を「人生を成功に導く人間力」、「人間の錬磨」、「コミュニケーションスキルの要諦」とし、学生のモチベーションを上げるための工夫、指導力のスキルアップ等について個々の教員の質の向上を目的に開催した。

また、平成30年7月7日に教職員を対象に講師の金井敬三先生(大阪企業人権協議会サポートセンター)による「ハラスメントに関する研修会」を開催した。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修規程に基づいて個々の教員に必要な研修を計画的に受講させることを計画している。専攻分野に関する知識、技術、技能を修得・向上するため、毎年8月に業界団体により、専門分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上と業界全体としての発展を掲げるための研修を行っている。

②指導力の修得・向上のための研修等

指導力を修得・向上するため、毎年、企業関係者等の外部講師によるSD研修会及びFD研修会の開催を学内で計画している。今後も多種多様な企業関係者等の外部講師による研修会を検討していく。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、学校評価を通じて学校と企業等の関係団体(業者団体)、卒業生及び保護者等がお互いに理解を深めることである。学校とそれに関係する人たちが理解を深め合うだけでなく、今後の学校の発展と向上のための協働作業である。学校評価は学校としての自己評価であるが、学校が行った自己評価に加え、企業等の関係団体(業者団体)、卒業生及び保護者等といった学校に関係する人たちの意見を参考にし、自己評価を客観的に判断していくことを基本方針とする。学校関係者評価とは学生のことを考え、それぞれの立場、視点からよりよい学校づくりを目指すものである。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	建学の精神・教育理念・教育方針
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育目標・教育活動・人材育成
(4)学修成果	教育活動・教育成果
(5)学生支援	教育環境・教育成果・学生支援
(6)教育環境	教育環境・教育活動
(7)学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11)国際交流	教育環境

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果の活用は、学校と企業等の関係団体(業者団体)、卒業生及び保護者等がお互いに理解を深めることに大いに役立つと考えられる。学校とその他の関係者が理解を深め合うだけでなく、今後の学校の発展並びに学生のことを考え、それぞれの立場、視点から、信頼される開かれた学校の構築に役立っている。その結果、学校関係者評価は開かれた学校づくりに効果的で、本校の「社会に役立つ道」や「心豊かな人間性と確かな実践力を身につける医療人」を育てる教育に有効であると確信できた。

自己点検・評価の一環で授業アンケート評価を取り入れたことで、教員相互間の授業力を高める取り組みがなされている。また、同時に学生による教員に対する授業評価を進めており、教員及び学生評価結果は次年度に活用している。

自己評価を行うことは「学校力」を高めるために役立つと考えられる。特に教職員の学校運営業務に対する参画意識の向上に有効に機能している。課題として明確な点は、改善策を具体化するための年間学校評価計画を作成することである。その際、学校改善に向けた効果的・効率的な組織体制を構築することが必須条件である。

具体的には、本年度は次のとおりである。

●平成30年9月1日(土)14時50分から15時25分

- ・「学生の募集と受け入れ」について、広報活動として校友会東洋医療部会、卒業生等及び学校関係者がさらに協力を強化し、積極的な募集活動に繋げる提案があった。現段階においても研修会、懇親会等で学校と相互協力を行っているが、新たな取り組みとして学生募集並びに鍼灸院、病院、クリニック及びその他の就職先等の分野にも拡張していくことを検討する。
- ・「社会貢献」について、難聴の生徒への支援として補聴器ロジャーシステムの紹介する提案があったので検討するが、その他にも総合的に学生が授業に集中できる環境作りへの取り組みについての意見を聴取していくこととする。
- ・東洋医療鍼灸学科(夜間)の授業科目として学外実習を実施する提案があったので、教育課程編成委員会にも報告して、次年度以降に継続審議事項として検討していくこととする。

【活用】

- ・東洋医療鍼灸学科(夜間)において、本年度より実施している新カリキュラムと従来の旧カリキュラムとでは教育内容並びに授業時間数が異なるため、学校に対し原級留置における就学指導体制について確認があった。学校としては新カリキュラムと旧カリキュラムの移行期間に原級留置を未然に防ぐために専任教員全体で学生への個別対応で就学指導体制の強化を行っているが、さらに兼任教員(非常勤教員)にも指導による支援体制の協力を得て、就学指導を行っている。また、原級留置を対象とした別クラスも最終的には検討している。
- ・「社会貢献」について、ボランティア活動として、学生がはり、きゅうの資格からなる多種多様な職種について知見を得ることを目的に、学校として積極的な教員派遣の参加に取り組む必要があるという意見があった。これについては学生からの申し出により授業以外としてはあるが積極的な参加に協力することとした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
一谷 勇一郎	イチロー整骨院	1年	②企業等委員
大石 雄一	公益社団法人 奈良県柔道整復師会	1年	①関係団体
久内 克仁	株式会社 傳次郎	1年	②企業等委員
吉備 登	卒業生	1年	④卒業生
橋本 等	卒業生	1年	④卒業生
織田 明	株式会社 ワールド	1年	②企業等委員
武田 大輔	関西医療学園専門学校(事務局)	1年	
廣岡 聡	関西医療学園専門学校(事務局)	1年	
武田 貴司	関西医療学園専門学校(事務局)	1年	
森岡 泰之	関西医療学園専門学校(事務局)	1年	
徳田 明也	関西医療学園専門学校(事務局)	1年	

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.kansai-iryō.ac.jp/>
(関西医療学園専門学校ホームページ)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

専修学校が学校教育法第42条、43条及び同法施行規則第66条、68条を準用し、学校自己評価の実施・公表は実施することが義務づけられた。これに伴い本校では平成17年度より「自己点検評価委員会」を立ち上げ、私立専門学校等評価研究機構の第三者評価事業が作成した自己点検ブック(私立専門学校等の自己点検・自己評価専門学校等評価基準)に基づいた自己点検を行い、今日に至るまで自己評価システムの構築と情報公開の普及活動を続けてきた。今後も開かれた学校づくりを基本方針に「学校関係者評価委員会」を設置し、更なる教育水準の向上に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	建学の精神・教育目標・目的・人材育成等
(2)各学科等の教育	教育活動
(3)教職員	学校運営
(4)キャリア教育・実践的職業教育	教育成果
(5)様々な教育活動・教育環境	教育環境
(6)学生の生活支援	学生支援
(7)学生納付金・修学支援	学生支援
(8)学校の財務	財務
(9)学校評価	法令等の遵守
(10)国際連携の状況	
(11)その他	社会貢献

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.kansai-iryo.ac.jp/>
(関西医療学園専門学校ホームページ)

授業科目等の概要

(医療専門課程 東洋医療鍼灸学科(夜間部))平成29年度(2年・3年)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報科学	コンピューターを使ったカルテ管理や患者に対する広報などが出来るよう、基本ソフトに習熟する。	1・後	30	2	○			○			○	
○			生物学	生命のしくみを学ぶことで、「生きている」ということを科学的な眼で捉え理解できることを目標とする。	1・前	30	2	○			○		○		
○			国語	円滑なコミュニケーションを行うための、読み・書き・話す力を養うことを目標とする。	2・前	30	2	○			○			○	
○			心理学	心の働きについて学ぶことにより、より広い視野から人を見られるようになることを目標とする。	2・後	30	2	○			○			○	
○			経営学	治療院の経営に必要となる実務的知識を学ぶ。内容としては、簿記、確定申告、開業設備、資金繰り、利益計画等について講義する。	3・前	30	2	○			○			○	
○			保健体育論	ヨガについて学習する。身体と精神を本来の自然な状態に近づけることで人は喜びのうちに生活を送ることが出来ることを学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○	
○			中国語	中国の文化を理解しながら中国語の基本文法や会話を学習する。鍼灸に関する専門用語の中国語での読み方も学ぶ。	1・前	30	2	○			○			○	
○			解剖学Ⅰ	正常な人体の形態と構造を学ぶ。解剖学Ⅰでは主に骨格系、筋系について形態と構造を学習する。また解剖学の意義など解剖学基礎についても学習する。	1・通	75	3	○			○			○	
○			解剖学Ⅱ	正常な人体の形態と構造を学ぶ。解剖学Ⅱでは、内臓系、内分泌系、脈管系、神経系、感覚器系について学習する。	1・通	75	3	○			○			○	
○			解剖学Ⅲ	解剖学Ⅲでは体表解剖を学ぶ。部位別に骨・筋・軟部組織、関節および関節可動域について講義し、実際に視診、触診を行う。	1・後	25	1	○			○			○	
○			生理学Ⅰ	正常な人体の機能を学ぶ。生理学Ⅰでは、神経、内臓の自律神経性調節、筋、運動、感覚、生体の防御機構、ホメオスタシスと生体のリズムについて学習する。	1・通	50	2	○			○			○	
○			生理学Ⅱ	正常な人体の機能を学ぶ。生理学Ⅱでは、生理学の基礎、血液、循環、呼吸、消化と吸収、栄養と代謝、体温、排泄、内分泌、生殖・成長・老化について学習する。	1・通	75	3	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程 東洋医療鍼灸学科(夜間部) 平成29年度(2年・3年))															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			運動学	人間の身体運動の機構を科学的に分析し、骨・腱・筋肉・関節について、その構造と機能について学習する。	3・後	25	1	○			○		○		
○			病理学概論	病理学では、人体の正常な生理機能の知識を基礎として、異常な状態、疾病の成り立ちについて学ぶ。	2・通	75	3	○			○			○	
○			リハビリテーション概論	鍼灸師にとって必要なリハビリテーション医学を総論、各論に分けて講義する。	3・前	25	1	○			○		○		
○			衛生学・公衆衛生学	疾病の予防、健康の保持と推進など、肉体的、精神的に快適な生活を営めるような条件づくりを学ぶ。	2・通	50	2	○			○			○	
○			臨床医学総論	西洋医学における診察および検査についての知識を身に付け、臨床の場で役立てることを目標とする。	2・通	75	3	○			○		○		
○			臨床医学各論	各疾患について西洋医学的観点から、成因、症状、検査・診断、治療について学習する。	3・通	75	3	○			○		○		
○			関係法規	あん摩・マッサージ・指圧師、鍼師、灸師が業務するうえで、理解しておかなければならない法令について学習する。	2・前	25	1	○			○		○		
○			医療概論	医学、医療、医療倫理、保険問題、医学史、介護問題についてなど、医療を志す者にとっては大切な内容を学ぶ。	1・前	25	1	○			○			○	
○			はり・きゅう理論	鍼灸についての基礎知識や臨床での応用について、また鍼灸治療の治効や関連する学説について学ぶ。	1・通	50	2	○			○			○	
○			東洋医学概論	東洋医学の特色、基礎にある自然哲学、人体の生理観、病理、病因、診察、治療などについて概説する。	2・通	75	3	○			○		○		
○			経絡経穴学Ⅰ	鍼灸の臨床において用いられる頻度の高い経穴の取穴を1年生で学ぶ。十二正経の五腧穴・五行穴の所属経・要穴名・取穴を学ぶ。	1・前	25	1	○			○		○		
○			経絡経穴学Ⅱ	十二正経、督脈、任脈の流注および各経穴の取穴を学ぶ。また、各経脈にある要穴を学習する。奇穴についても取穴を学ぶ。	2・通	50	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程 東洋医療鍼灸学科(夜間部))平成29年度(2年・3年)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			経絡経穴学Ⅲ	臨床によく用いられる経穴の治療効果や穴性について学ぶ。	2・後	25	1	○			○			○	
○			東洋療法各論Ⅰ	内科系疾患に対する治療について、選穴や施術方法を学習する。	2・通	50	2	○			○			○	
○			東洋療法各論Ⅱ	運動器系疾患に対する治療について、選穴や施術方法を学習する。クラスを2班に分け、半期・後期でそれぞれ授業を実施する。	3・前	50	2	○			○			○	○
○			東洋医学臨床論	東洋医学における基礎的な診断学、病因病理学、弁証学を講義する。特に、臨床上遭遇しやすい症候、疾病に対して東洋医学と現代医学とを総合した鍼灸治療の実際を学習する。	3・通	100	4	○			○			○	
○			社会はき学Ⅰ	はり師、きゅう師、あん摩・マッサージ師がスポーツの世界でトレーナーとして働くときに必要な知識と技術を習得する。	2・前	25	1	○			○			○	
○			社会はき学Ⅱ	救命救急を要する対象疾患の特徴(病態、診断、治療)を理解し、鍼灸師としての必要な処置について学習する。	3・後	25	1	○			○			○	
○			はり・きゅう実技Ⅰ	鍼灸の基礎技術を修得する。鍼灸用具を適切に使用できるように、鍼・灸を安全に衛生的に施術できるように、また、施術者として好ましい身だしなみや言葉遣い、態度を身に付ける。	1・通	175	5			○	○			○	
○			はり・きゅう実技Ⅱ	1年次に学んだ基本的な鍼灸の手技に加え、応用的な手技を修得する。	2・前	70	2			○	○			○	○
○			はり・きゅう実技Ⅲ	身体各部位に安全で効果的な鍼灸施術ができるよう実技を通して学ぶ。また、よくみられる疾患に対する鍼灸施術を学ぶ。	2・後	70	2			○	○			○	○
○			はり・きゅう実技Ⅳ	臨床の実際を意識し、病態に合わせた適切な鍼灸施術が行えるよう実技を通して学ぶ。	3・通	70	2			○	○			○	○
○			臨床基礎実習	3年生での臨床実習に備え、2年次に付属鍼灸院での実習を行う。治療の流れや治療院での業務内容を理解する。また、医療面接について学ぶ。	2・後	35	1			○	○			○	
○			臨床実習	付属鍼灸院で診察から治療までがどのような流れで行われるかを学ぶ。また受付業務やカルテ整理などについて実習する。	3・通	180	4			○	○			○	○

授業科目等の概要

(医療専門課程 東洋医療鍼灸学科 (夜間部)) 平成29年度 (2年・3年)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
○			演習Ⅰ	現代の生活スタイルが健康におよぼす問題点と、健康を維持・増進していくための運動や食生活のあり方について学習する。	2・前	25	1		○		○				○
○			演習Ⅱ	中医学における舌診や脈診を学習し、所見から病態把握 (弁証) ができることを目標とする。	3・通	25	1		○		○				○
○			演習Ⅲ	病態把握から治療方針を立て、選穴・処方を行えることを目標とする。	3・通	25	1		○		○				○
○			東洋医学総合講義	3年間で学習する東洋医学に関する知識を総合的にとらえて活用できる力を養い、臨床に対応できることを目標とする。	3・通	25	1	○			○				○
○			特殊療法Ⅰ	古典に基づく治療法や伝統的な考えに基づく治療法を学習する。	2・後	25	1	○			○				○ ○
○			特殊療法Ⅱ	古典治療である経絡治療について六部定位脈診、腹診による証決定や難経に基づく選穴や治療法を学ぶ。	2・後	50	2	○			○				○ ○
○			特殊療法Ⅲ	鍼灸療法における様々な鍼法・灸法・治療法を紹介し、その知識・技術を習得する。クラスを2班に分け、前期・後期でそれぞれ授業を実施する。	3・後	75	3	○			○				○
○			東洋医学総合療法Ⅰ	基礎的な治療法について、診察、病態把握、治療方針、選穴治療の流れを学ぶ。	1・後	35	1				○				○
○			東洋医学総合療法Ⅱ	基礎的な治療法について、診察、病態把握、治療方針、選穴治療の流れを学ぶ。	1・後	35	1				○				○
○			東洋医学総合療法Ⅲ	伝統医学における基本的な治療法について、診察、病態把握、治療方針、選穴治療の流れを学ぶ。	1・後	35	1				○				○
○			東洋医学総合療法Ⅳ	鍼療法の一つである耳鍼療法について学ぶ。耳穴の取穴や効能、診察法、刺鍼法を学ぶ。また、症例から耳鍼療法の実際を学ぶ。	2・後	15	1	○							○ ○
○			東洋医学総合療法Ⅴ	応用的な治療法について、診察、病態把握、治療方針、選穴治療の流れを学ぶ。	3・通	35	1				○				○
○			東洋医学総合療法Ⅵ	筋骨格痛の原因であるトリガーポイント (TP) について学び、疼痛を起こす筋TPの触察、療法を学ぶ。	3・通	35	1				○				○
合計					49科目	2400単位時間 (92単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業条件は、出席を満たすと同時に、定期試験・卒業試験等すべての科目の単位取得を条件とする。進級条件は、出席を満たすと同時に、進級試験に合格し、未修得単位15単位以下を条件とする。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(医療専門課程 東洋医療鍼灸学科〔夜間部〕) 平成30年度(1年)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報科学	コンピューターを使ったカルテ管理や患者に対する広報などが出来るよう、基本ソフトに習熟する。	1・後	30	2	○			○			○	
○			生命科学	生命のしくみを学ぶことで、「生きている」ということを科学的な眼で捉え理解できることを目標とする。	1・前	30	2	○			○		○		
○			中国語	中国の文化を理解しながら中国語の基本文法や会話を学習する。鍼灸に関する専門用語の中国語での読み方も学ぶ。	1・前	30	2	○			○			○	
○			保健体育	ヨガについて学習する。身体と精神を本来の自然な状態に近づけることで人は喜びのうちに生活を送ることが出来ることを学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○	
○			健康科学	現代の生活スタイルが健康におよぼす問題点と、健康を維持・増進していくための運動や食生活のあり方について学習する。	1・前	30	2	○			○			○	
○			心理学	人とのコミュニケーションに関わる基礎的な心理プロセスとその理論の枠組みについて理解する。	2・後	30	2	○			○			○	
○			医療経営学	治療院の経営に必要となる実務的知識を学ぶ。内容としては、簿記、確定申告、開業設備、資金繰り、利益計画等について講義する。	3・前	30	2	○			○			○	
○			人体の構造と機能Ⅰ	正常な人体の形態、構造、機能について解剖学と生理学の内容を学ぶ。	1・通	60	3	○			○			○	
○			人体の構造と機能Ⅱ	正常な人体の形態、構造、機能について解剖学と生理学の内容を学ぶ。	1・通	60	3	○			○			○	
○			人体の構造と機能Ⅲ	正常な人体の形態、構造、機能について解剖学と生理学の内容を学ぶ。	1・通	60	3	○			○			○	
○			人体の構造と機能Ⅳ	正常な人体の形態、構造、機能について解剖学と生理学の内容を学ぶ。	1・通	60	3	○			○			○	
○			人体の構造と機能Ⅴ	身体運動の機構を科学的に分析し、骨・腱・筋肉・関節について、その構造と機能について学習する。運動学を学ぶ。	3・後	40	2	○			○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程 東洋医療鍼灸学科〔夜間部〕)平成30年度(1年)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			病理学概論	病理学では、人体の正常な生理機能の知識を基礎として、異常な状態、疾病の成り立ちについて学ぶ。	2・通	60	3	○			○	○			
○			リハビリテーション概論	鍼灸師にとって必要なリハビリテーション医学を総論、各論に分けて講義する。	3・前	40	2	○			○	○			
○			臨床医学総論	西洋医学における診察および検査についての知識を身に付け、臨床の場で役立てることを目標とする。	2・通	80	4	○			○	○			
○			臨床医学各論	各疾患について西洋医学的観点から、成因、症状、検査・診断、治療について学習する。	3・通	80	4	○			○	○			
○			衛生学・公衆衛生学	疾病の予防、健康の保持と推進など、肉体的、精神的に快適な生活を営めるような条件づくりを学ぶ。	2・通	60	3	○			○			○	
○			関係法規	あん摩・マッサージ・指圧師、鍼師、灸師が業務するうえで、理解しておかなければならない法令について学習する。	2・前	20	1	○			○		○		
○			医療概論	医学、医療、医学史、社会保障制度、職業倫理、介護問題についてなど、医療を志す者にとって大切な内容を学ぶ。	1・前	40	2	○			○			○	
○			はり・きゅう理論	鍼灸についての基礎知識や臨床での応用について、また鍼灸治療の治効や関連する学説について学ぶ。	1・通	60	3	○			○			○	
○			東洋医学概論Ⅰ	東洋医学の特色、基礎にある自然哲学、人体の生理観、病理、病因、診察、治療などについて概説する。	1・前	40	2	○			○		○		
○			東洋医学概論Ⅱ	東洋医学の特色、基礎にある自然哲学、人体の生理観、病理、病因、診察、治療などについて具体的に学習する。	2・通	80	4	○			○		○		
○			取穴基礎	体表観察を学び、取穴の基礎や施術の際に必要な体表解剖の知識を身に付ける。	1・後	40	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程 東洋医療鍼灸学科〔夜間部〕) 平成30年度(1年)																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			基礎経絡経穴学Ⅰ	経絡経穴の基礎となる十二正経の流注や所属経穴、および五腧穴・五行穴・原穴・郄穴・絡穴・募穴・背部腧穴の要穴名と取穴を学ぶ。	1・通	40	2	○			○			○		
○			基礎経絡経穴学Ⅱ	経絡経穴の基礎となる十二正経の流注や所属経穴、および五腧穴・五行穴・原穴・郄穴・絡穴・募穴・背部腧穴の要穴名と取穴を学ぶ。	1・通	40	2	○			○			○		
○			臨床経絡経穴学Ⅰ	十二正経、督脈、任脈に属する経穴および奇穴について、穴の位置とその部にある筋・神経・血管など臨床上必要とする知識を学ぶ。	2・通	80	4	○			○				○	
○			臨床経絡経穴学Ⅱ	十二正経、督脈、任脈に属する経穴および奇穴で、臨床上よく用いられるものについてその主治や穴性を学ぶ。	2・後	40	2	○			○			○		
○			臨床東洋医学Ⅰ	臨床上遭遇しやすい疾患や病証に対する東洋医学の治療を学ぶ。	2・通	80	4	○			○				○	
○			臨床東洋医学Ⅱ	臨床上遭遇しやすい症候に対して東洋医学と現代医学とを総合した治療の実際を学習する。病態生理学やあはきの適応判断についても学習する。	3・通	80	4	○			○				○	
○			臨床東洋医学Ⅲ	東洋医学の診察を通して得られた所見より病態を把握して治療法および治療穴を処方できるよう学習する。東洋医学でいう弁証論治を学ぶ。	3・前	40	2	○			○				○	
○			臨床東洋医学Ⅳ	臨床上遭遇しやすい症候に対して東洋医学と現代医学とを総合した治療の実際を学習する。病態生理学やあはきの適応判断についても学習する。	3・通	80	4	○			○				○	
○			社会はき学Ⅰ	はり師、きゅう師、あん摩・マッサージ・指圧師がスポーツの世界でトレーナーとして働くときに必要な知識を学ぶ。	2・前	40	2	○			○				○	
○			社会はき学Ⅱ	救命救急を要する対象疾患の特徴(病態、診断、治療)を理解し、あはき師としての必要な処置について学習する。	3・後	20	1	○			○				○	
○			はり・きゅう実技Ⅰ	鍼灸の基礎技術を修得する。用具を適切に使用でき、安全に衛生的に施術ができるように学習する。また、施術者として好ましい身だしなみや言葉遣い、態度を身に付ける。	1・通	210	7			○	○			○		
○			はり・きゅう実技Ⅱ	1年次に学んだ基本的な鍼灸の手技に加え、応用的な手技を修得する。	2・通	90	3			○	○				○	

授業科目等の概要

(医療専門課程 東洋医療鍼灸学科〔夜間部〕) 平成30年度(1年)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			はり・きゅう実技Ⅲ	身体各部位に安全で効果的な鍼灸施術ができるよう実技を通して学ぶ。また、よくみられる疾患に対する鍼灸施術を学ぶ。	2・通	90	3			○	○			○	
○			はり・きゅう実技Ⅳ	臨床の実際を意識し、病態に合わせた適切な鍼灸施術が行えるよう実技を通して学ぶ。	3・前	30	1			○	○			○	
○			はり・きゅう実技Ⅴ	臨床の実際を意識し、病態に合わせた適切な鍼灸施術が行えるよう実技を通して学ぶ。	3・通	60	2			○	○			○	
○			臨床基礎実習	臨床実習に備え医療面接を学ぶ。また、治療院での受付業務、カルテや施術の準備、カルテ記載など臨床現場での行われる一連の流れを学ぶ。	2・通	30	1			○	○			○	
○			臨床実習	本校付属鍼灸院で、教員の指導のもと、臨床現場の実際を実習で学ぶ。受付業務、来院者とのコミュニケーション、問診等の診察、施術、カルテ記載などについて実習する。	3・通	180	4			○	○			○	○
○			東洋医学総合講義	東洋医学に関する知識を総合的にとらえて活用できる力を養い、臨床に対応できることを目標とする。	3・通	60	3	○			○			○	
○			特殊療法Ⅰ	古典に基づく治療法や伝統的な東洋医学の療法について学ぶ。	2・後	20	1	○			○			○	
○			特殊療法Ⅱ	古典治療である経絡治療について六部定位脈診、腹診による証決定や難経に基づく選穴や治療法を学ぶ。	2・後	60	3	○			○			○	
○			特殊療法Ⅲ	鍼灸療法における様々な鍼法・灸法・治療法を紹介し、その知識・技術を習得する。	3・通	60	3	○			○			○	
○			鍼灸総合療法Ⅰ	古典的に基づく鍼灸療法や現代的な鍼灸療法について標準的な療法を基礎から学ぶ。	1・通	60	3	○			○			○	
○			鍼灸総合療法Ⅱ	古典的な鍼灸療法や現代的な鍼灸療法を応用した療法を学ぶ。	2・後	20	1	○			○			○	
○			鍼灸総合療法Ⅲ	古典的な鍼灸療法や現代的な鍼灸療法を応用した療法を学ぶ。	3・通	60	3	○			○			○	
合計					47科目	2660単位時間(123単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	卒業条件は、出席を満たすと同時に、定期試験・卒業試験等すべての科目の単位取得を条件とする。進級条件は、出席を満たすと同時に、進級試験に合格し、未修得単位15単位以下を条件とする。	1 学年の学期区分
1 学期の授業期間		20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。